

政策分野/担当部署	具体的な施策	KPI (重要業績評価指標)	現状値 (H27年度)	目標値	H28年度の実績値	H29年度の実績値	H30年度の実績値	令和元年度の実績値	KPI 検証結果	評価 (総括)
ひとの育成	総合政策課 1-1 中学生と高校生の地方創生参画推進事業	・全ての中学校で地方創生に関する説明会	—	毎年1回以上開催	1校	2校	2校	6校	【A】 目標値を達成し、効果があった。	平成28年度に磯部中学校、29年度に東海中学校、浜島中学校、30年度には大王中学校、志摩中学校で実施した。最終年度である令和元年度については全中学校で実施した。
		・地域に誇りを持つ生徒の割合と将来は地域に暮らしたいという生徒の割合	誇りを感じる 75.3% 暮らしたい 51.2%	誇りを感じる 80%以上 暮らしたい 70%以上	誇りを感じる 79.3% 暮らしたい 51.7%	誇りを感じる 81.5% 暮らしたい 68.0%	誇りを感じる 85.8% 暮らしたい 77.5%	誇りを感じる 85.3% 暮らしたい 70.9%	【A】 目標値を達成し、効果があった。	平成28年度には独自にアンケート調査を実施していたが、各市町が個別にアンケートを実施することが高校側の負担となっていることから、29年度以降は県が実施をしている。実績値については増加傾向にあり、効果があったと思われる。
	介護・総合相談支援課 1-2 介護予防ボランティアでポイント事業	・地域支援ボランティアとして活動する人の数	0人	毎年500人以上	232人	263人	317人	339人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値の500人の設定は、社会福祉協議会に登録のいきいきサロンの運営者約300名とお達者サポーター養成講座の受講者約210名を基に設定したが、活動登録を希望しないサロンや活動を辞退しているお達者サポーターもあり、目標値に達しなかった。そんな中でも新たにボランティアを始められた活動登録員は年々着実に増加しており、この事業に対する関心や理解が進んだと考えられることから事業実施の効果があった。
		・ボランティア活動に参加した年間の通算人数	0人	年間3,000人以上	—	2,685人	3,026人	3,710人	【A】 目標値を達成し、効果があった。	目標値の3,000人の設定は、500人の活動登録員が年間6回程度の活動を想定し設定した。活動登録員が設定目標に至っていないのに対し、ボランティア活動に参加した通算人数は目標値に達しており、1人当たりのボランティア活動の頻度が高い。平成30年度は平成29年度に比べ341人増加しており、事業実施の効果があった。
	観光商工課 1-3 がんばる市民を応援する事業	・助成事業による年間の資格取得者数	—	50人以上	—	3人	3人	6人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	当初の目標値があまりにも現実的ではなかったため、目標値には及ばなかったものの、年々増加傾向にあり、効果があったと思われる。
		・奨励事業による指定資格の取得者数	—	目標の80%以上	—	10%	40%	20%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標数値が当初予算計上人数となっているが、申請者数が見込みより少なく、目標値に達しなかった。
		・資格取得者のネットワーク	構築されていない	構築されている	—	構築されていない	構築されていない	構築されていない	【E】 実施していない。	現在までの資格取得支援事業補助金交付者が12名、資格取得奨励金交付者が4名、計16名の資格取得者が存在するが、資格者数が少なくネットワーク作りまで至らなかった。
	総合政策課 1-4 地域とのつながりによる県立高校の魅力向上事業	・地域と高校で魅力向上のための対策が検討されている	検討されていない	検討されている	検討されている	検討されている	検討されている	検討されている	【A】 目標値を達成し、効果があった。	志摩高校がええじゃんか祭りにブース出展を行うなど、地域と連携を図り魅力向上の検討を行った。
		・両校の生徒が活躍する機会	—	年10回以上	7回	11回	13回	4回	【A】 目標値を達成し、効果があった。	水産高校の商品開発プロジェクト「ポニータ」が横浜で開催された。フードグランプリに出場したなど、生徒が活躍する機会があった。
		・インターンとして生徒を受け入れてくれる事業者の数	—	延べ20者以上	19者	12者	15者	50者	【A】 目標値を達成し、効果があった。	令和元年度に大きく数字を伸ばし、目標値を達成した。生徒がインターンシップを実施することにより、地元企業等への就業する機会の創出になり、効果があったと思われる。
	健康推進課 1-5 二十歳からの健康貯蓄事業	・定期的に健康診査を受けようと思う人の割合	71.0%	毎年50%以上	71.0%	88.4%	91.0%	85.6%	【A】 目標値を達成し、効果があった。	アンケート「今後の健康のために若者の健診に限らず毎年健診を受けようと思いますか？」にて、208人が回答し、「とても思う」が89人(43.2%)、「まあまあ思う」が89人(43.2%) 該当。
		・健康診査の受診者に占める再受診の割合	30%	毎年45%以上	—	—	25.4%	33.2%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	令和元年度受診者208人のうち再受診者69人(33.2%)。うち、20代の再受診者は、9人(20代受診者の17.0%)、30代の再受診者は60人(30代受診者の38.7%)。
総合政策課 1-6 心豊かな暮らしを育む人材育成事業	・考案されたライフスタイルの数	—	延べ200以上	延べ60	延べ76	延べ76	延べ76	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	東北大学との連携プロジェクトにおいて職員・市民ワークショップを開催する中で、バックキャスト思考によるライフスタイルの考案を行い、平成30年度末時点で延べ76件となった。当初、ライフスタイルの目標値を「延べ200以上」で設定したが、ワークショップを重ねる中で、数を追い求めるべきではなく、地域にあったライフスタイルの考案及び実現を重視する方向となったため、件数は増えていない。	
	・心豊かな暮らし方の実践に向けた取り組みの数	—	延べ6件以上	—	延べ2件	延べ3件	延べ5件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値に達していないが、波切の市民WS(波切ライフスタイル変革プロジェクト)メンバーにより自主的な取り組みが着実に進められており、令和元年度も複数の取り組みを実施した。	
総合政策課 1-7 大学等との連携による人材育成推進事業	・学びの場として志摩市を活用した大学生等の人数	—	年間20人以上				—	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	学びの場としての活用に向けた環境整備を令和元年度に実施しているため、KPIについては整備後に把握することとなる。令和元年度については、整備後の活用につなげるため、三重大学、立命館大学、辻調理師専門学校等との連携を強化するための取り組みを行った。	
	・学生と市民等による交流会の開催回数	—	年間2回以上				—	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	同上	
	・学生と市民等が協働して導き出した地域課題解決に向けた提案件数	—	年間1件以上				—	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	同上	

政策分野/担当部署	具体的な施策		KPI(重要業績評価指標)	現状値(H27年度)	目標値	H28年度の実績値	H29年度の実績値	H30年度の実績値	令和元年度の実績値	KPI検証結果	評価(総括)	
ひとの確保	総合政策課	2-1 若い女性が暮らしやすい志摩づくり事業	・検討結果の普及啓発を行った回数	—	延べ4回以上	—	—	延べ4回	延べ4回	【A】 目標値を達成し、効果があった。	平成30年度において、平成28年度に作成した提言書をもとに、志摩市で働く若い女性の暮らしやすさを向上させるためには何かが必要か、29年度に引き続き、ワークショップ(WS)を7回開催した。WSメンバーは、一般市民7人、市職員3人の計10人。また、マザーズライフサポーターの理事長を招き、講演会を実施。講演会の前座でワークショップの取り組みを紹介。この講演会に訪れた女性(秀森さん)が、マザーズライフサポーター志摩支部を立ち上げ、3月にキックオフイベントを開催するまでに至った。その他、子育て支援につなげるためのチラシ(ファミリーサポートセンター)のデザインを新たに作成した。	
			・改良または設計された施策の件数	—	延べ8件以上	—	—	延べ1件	延べ1件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。		
	総合政策課	2-2 移住しやすい志摩づくり事業	・情報提供や支援体制に対する移住希望者の満足度	—	H31に70%以上	—	—	—	—	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	支援体制の形態についてはワークショップにより協議し、移住を検討している人が、メールで日時を問わず問合せができ、市が先輩移住者の意見を聞いて回答できる体制としてシステムを構築して支援者を募集し、平成30年度から運用している。平成30年度、令和元年度に事例はなく、移住ガイドブックに問合せフォームの案内を挟み、方法を練りながら情報の周知を図っているところである。満足度の判定は、回答のメールを返信していただき確認する方法としているが、現在の所実績はないこともあり、満足度判定も今後の課題と考える。	
			・支援体制に協力してくれる移住者の数	—	H31に50人以上	6人	7人	18人	19人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。		
	水産課	2-3 水産業の担い手受け入れ推進事業	・若者を受け入れる条件が整理された漁業集落の数	2集落	延べ5集落以上	延べ2集落	延べ3集落	延べ3集落	延べ3集落	延べ3集落	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値には達しなかったが、的矢地区において2名がカキの養殖技術を習得中であり、独立後も的矢地区にカキ養殖漁業者として活躍するものと期待している。
			・若者を受け入れた漁業集落の数	2集落	延べ4集落以上	延べ2集落	延べ3集落	延べ3集落	延べ3集落	延べ3集落	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	
	総合政策課	2-4	IJU(移住)ターン促進のための奨学金返済補助事業	・制度を利用した人の数	—	延べ100人以上	—	延べ13人	延べ35人	延べ75人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	令和元年度の実績として、41人に対し3,971,000円の補助金を交付した。目標(予算額)を大きく上回り、前年より申請件数が増えている。目標達成に向けた対応として、「市内就労」の要件を緩和していたことが要因と考えられる。
	総合政策課	2-5	若者の集いと出会いの支援事業	・支援したイベント等で集った若者の数	—	毎年200人以上	374人	432人	2,033人	2,050人	【A】 目標値を達成し、効果があった。	令和元年度は5事業の補助申請があった。比較的大きな地域イベントが2つ開催されているため、KPIは達成できており、一定の成果が出ていると言える。
	都市計画課	2-6	家主と移住者のためのリノベーションによる空き家活用等事業	・リノベーション助成を利用して移住した件数	0件	延べ5件以上	延べ2件	延べ4件	延べ7件	延べ8件	【A】 目標値を達成し、効果があった。	空き家のリノベーションについては平成30年度で目標値を達成できた。
				・リフォーム助成を利用して移住した件数	0件	延べ15件以上	—	延べ2件	延べ7件	延べ8件	延べ8件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。
総合政策課	2-7	若者世代の移住促進事業	・制度を利用して移住した件数	—	延べ5件以上	—	延べ13件	延べ26件	延べ34件	【A】 目標値を達成し、効果があった。	若者や子育て世帯の住宅の確保を支援することにより、これらの世帯の移住や定住につながる有効な制度と思われるため、予想を上回る実績となったと考えられる。	
農林課	2-8	農業の担い手受け入れ推進事業	・生産指導を行う既存の農業者(個人又は団体の数)	—	3者以上	—	2者	2者	2者	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値には達しなかったものの、きんこ農家2者が地域おこし協力隊への生産指導を行っており、一定の効果があったと思われる。	
			・新たに農業に従事した者の数	—	6人以上	—	1人	1人	1人	1人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	平成31年3月から協力隊員1人(いちご栽培)が活動を始め、平成31年4月から新たに隊員1人(きんこ芋栽培・加工)が活動を行っており、目標値には達しなかったものの、一定の効果があったと思われる。
			・生産量が増加した農産物の数	—	3種類以上	—	—	—	—	—	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	隊員は活動を開始したばかりであり、目標値には達しなかった。今後、生産農家として自立していただけるよう引き続き支援に努める。

政策分野/担当部署	具体的な施策	KPI(重要業績評価指標)	現状値(H27年度)	目標値	H28年度の実績値	H29年度の実績値	H30年度の実績値	令和元年度の実績値	KPI検証結果	評価(総括)		
まちの発見	秘書課	3-1 志摩市ホームページの魅力向上事業	・HPの年間アクセス数	300,000件	年間430,000件以上	425,256件	438,123件	465,422件	552,235件	【A】 目標値を達成し、効果があった。	アクセス数は年々増加しており、令和元年度については、大きく数字を伸ばし、目標値を達成した。	
			・HPへの市民による年間投稿件数	-	年間300件以上	32件	11件	22件	1件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	市ホームページへの投稿は少なかったものの、インスタグラムなどのツールを構築し、投稿数の増加を図った。各回の優秀作品等のリポストも行い、投稿者の増加を図っており、インスタグラムのフォロワー数も着実に伸びている。	
			・HPが見やすいと答えた人の割合	-	毎年80%以上	17.9%	32.4%	37.7%	37.7%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値には達していないが、年を追うごとに率が上がっており、効果があったものと思われる。	
	総合政策課 秘書課	3-2 きらり志摩びと紹介事業	・番組や広報紙等で紹介した人や団体の数	-	延べ50以上	番組：延べ11件 広報：延べ10人	番組：延べ17件 広報：延べ21人	番組：延べ21件 広報：延べ27人	番組：延べ27件 広報：延べ34人	【A】 目標値を達成し、効果があった。	令和元年度で延べ61となり、目標を達成した。	
			・番組や広報紙等を見た市民の割合	-	毎年各50%以上	番組：32.0% 広報：53.8%	番組：41.1% 広報：81.4%	番組：43.5% 広報：79.3%	番組：41.8% 広報：83.8%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	広報しまの特設コーナーについては目標値を達成しているが、紹介番組については達成していない。しかしながら、紹介番組の実績値を見ると年々増加傾向となっており、一定の効果があったと思われる。	
			・番組や広報紙等で紹介した人々のネットワーク	構築されていない	構築されている	構築されていない	構築されていない	構築されている	構築されていない	【C】 目標値を達成したが、効果はなかった。	平成30年度に、リレー方式による出演者の紹介や出演者を集まっていた交流会開催するなど、人的ネットワークの構築を図るよう努め、その際にはネットワークの構築は出来たものの、出演者の方たちは既に商工会等の組織やSNSでつながっているケースが見受けられ、新たなネットワークの構築には至らなかった。	
	総合政策課	3-3 地域の資源を活用するためのプラットフォーム創出事業	・プラットフォームに参加している人の数	-	延べ100人以上	延べ102人	延べ285人	延べ374人	延べ509人	【A】 目標値を達成し、効果があった。	商工会、観光協会、農協への事業説明とヒアリングによりニーズの把握を行い、食や観光、6次産業化、ドローン等を視点に講演会を開催した。	
			・プラットフォームを通じて生み出された協働の数	-	延べ10件以上	-	-	-	-	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	商工会、観光協会、農協、漁協、青年会議所への参加の呼びかけをし、広報やHPでの周知を図り、様々な業種の方々に参加をいただいたが、協働の取組みには至らず、目標値を達成できなかった。	
	農林課	3-4 農産物の生産実態把握事業	・調査に協力してくれた人の割合	-	調査実施時に70%以上	18.1%	-	-	16.0%	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	平成28年度に実施した実態把握調査以降、具体的な取り組みが行われていない状況である。平成30年度は、JA伊勢と農産物の生産実態の把握について、その手法に関する協議を行い、令和元年度には「まるやま朝市」でアンケート調査を実施し、少量多品目による農業形態が改めて確認できた。	
			・生産量及び生産額、並びにそれらの物流の把握	把握できていない	把握できている	部分的に把握している	-	-	-	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	JA、伊勢志摩地域農業改良普及センター、鳥羽市、志摩市で構成されている鳥羽志摩協議会でも、地域農産物の育成、地産地消の推進を掲げていることから、インショップ等直売所での販売状況等に注力する意味で、出品者を対象とした産品別の作付面積、生産量、生産額等の把握に努めていきたい。	
	教育総務課 (学校給食センター)	3-5 志摩市の食材を活かした食育推進事業	・学校給食における地場産物の活用状況	-	志摩市産5%以上 三重県産35%以上				志摩市産3.9% 三重県産36%	志摩市産7.0% 三重県産30%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	3,000食を超える学校給食においては、志摩市産の食材を確保するのが難しく、限られた物になってしまうのが現状である。そのため志摩市産の活用状況において目標値には達していないが、毎月1回志摩産給食の日を実施することにより、本事業の目的である「子どもたちが地元食材を使った給食を食べる機会を増やす」ということについては効果があったと考える。
			・生産者交流会の実施回数	-	年間6回以上				年間5回	年間6回	【A】 目標値を達成し、効果があった。	目標値は年6回以上の実施としているが、段階的に実施回数を増やす計画として平成29年度は4回、平成30年度は5回、令和元年度は6回を予定していたものである。生産者交流会では、漁協や農協の協力もいただきながら、子どもたちに地場産物の特徴や生産方法を伝えることができ、地域の魅力に気づくといった効果は十分あったと考える。

政策分野/担当部署	具体的な施策		KPI(重要業績評価指標)	現状値(H27年度)	目標値	H28年度の実績値	H29年度の実績値	H30年度の実績値	令和元年度の実績値	KPI検証結果	評価(総括)	
総合政策課	4-1	ふるさと応援寄附推進事業	・年間の経済波及効果	3.5億円	毎年3億円以上	3.7億円	1.1億円	0.3億円	1.1億円	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値には達しなかったものの、令和元年度は大きく数字を伸ばしており、また、寄附金の3割が地元業者に支払いをしており少なからず波及効果があると考えられる。	
			・最初に返礼品を出荷した年に比べてふるさと応援寄附の返礼品の出荷が原因で、事業者の取り扱う商品が増加している事業者の割合	100%	毎年70%以上	-	-	11.5%	-	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	取り扱い商品の種類は増加しているかは不明な事業者が多いものの、取り扱い商品の量は増えていると感じている事業者はあった。	
農林課 水産課	4-2	生産物の販路拡大による農林水産業活性化事業	・ニーズを踏まえて販路拡大に取り組んだ生産物の数	-	延べ10品目以上	延べ17品目	延べ26品目	延べ32品目	延べ34品目	【A】 目標値を達成し、効果があった。	農産物の販路拡大については、JA伊勢、生産農家等との連携のもと、供給量の確保も考慮しながらの組み立てが重要ではないかと考える。一方、PR活動については、産業振興部全体として、首都圏等人口密集地域にイベント出展等を行う際の実施することができた。今後も市内連携に努めながらPR活動に取り組んでいく必要がある。	
			・販路が拡大できた生産物の数	-	延べ5品目以上	延べ1品目	延べ1品目	延べ1品目	延べ1品目	延べ3品目	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	伊勢えび・ありのふく・カキの旬を迎えた志摩市を代表する地元の食材の魅力を生市内に広く情報発信するため、ポスターを製作し、市内の公共施設、飲食店へ配布し好評を得た。新たな市場を拡大することを目的に官学連携によるファッションショーを開催し若い世代にアコヤ真珠の魅力を伝えることが出来た。
農林課	4-3	農業生産者の強化と育成事業	・生産量と生産額を増やした農業生産者の数	4者	延べ20者以上	延べ8者	延べ10者	延べ22者	延べ28者	【A】 目標値を達成し、効果があった。	ビニールハウスの新設補助及び認定農業者の営農継続にかかる支援制度の活用により、生産量及び生産額を増やした農業者の声も聞いており、一定の効果があったものと考えている。	
			・制度を活用した農業生産者でインターン等の若者を受け入れた数	-	延べ5人以上	-	-	-	-	-	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	本事業でのインターンの受け入れは実施できなかったが、学生のニーズがあれば取り組んでいけるよう農業者との連携に努める必要がある。
			・認定農業者数の減少率	-	5%未満			15.2%	15.2%	15.2%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	認定農業者の営農継続にかかる支援制度を創設し、支援を希望される認定農業者が一定数お見えになったことから、営農継続に向けての一助にはなっているものと考えている。認定農業者が少しでも減少することのないよう支援に努めるとともに、新たに認定農業者になっていただける人材の発掘・育成に取り組んでいく必要がある。
			・安定的な営農モデルの公表数	-	延べ5件以上			-	-	-	【E】 実施していない。	現状では、安定的な営農モデルの公表にまで至っていない。JA伊勢、伊勢志摩地域農業改良普及センター等関係機関からの意見を踏まえ、当地域に適した営農モデルを示していく必要がある。(施設園芸単一品種：いちご、トマト等⇒逆に地産地消に基づく少量多品目の栽培では、生産の効率化、売上の平準化といった点から容易にはいかないところもある。)
観光商工課	4-4	外国人観光客誘致推進事業	・外国人観光客数	46,244人	H31に100,000人以上	68,780人	56,093人	52,840人	41,447人(暫定値)	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	令和元年度については、自然災害等の影響が大きく数字を下げる要因となり、全体数は減となったため目標には達していないが、後半は数字も安定し、国籍別では東南アジア、欧米等の伸びがみられた。また、観光客の個人旅行は年々加速しており、令和元年度は個人客数の割合が、団体客数の割合を上回った。	
			・外国人観光客に占める東南アジアからの観光客の割合	5.9%	H31に20%程度	6.2%	6.6%	7.9%	5.3%	5.3%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標に達していないが、セールスやプロモーションを行ったタイを中心に数字が伸びた。
			・外国人観光客に占める欧米からの観光客の割合	3.2%	H31に10%程度	8.8%	9.4%	11.8%	13.4%	13.4%	【A】 目標値を達成し、効果があった。	アメリカ・フランス・イギリスを中心に数字が伸び、目標に達した。
			・地域連携DMOの構築	構築されていない	構築されている	構築されていない	構築されていない	構築されている	構築されている	構築されている	【A】 目標値を達成し、効果があった。	広域でのインバウンド誘致をはじめとした観光振興の取組を推進するため、(公社)伊勢志摩観光コンベンション機構が「日本版DMO候補法人」として平成31年3月29日付で認定を受け、地域連携DMOが構築され、目標に達した。今後は正式登録を目指していくこととなる。
水産課	4-5	未活用資源等を利用した漁業振興事業	・未活用資源として定めた水産物を対象に資源管理型の漁業等を試行した件数	-	延べ2件以上	延べ1件	延べ1件	延べ1件	延べ1件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	アカモクについては、試験操業に参加する地区の中には、自主的に取り組んでくれる漁業者が増え始めている。アカモク以外の未活用資源としてカンガゼの活用に向け取り組みを行っていく。	
			・試行で得られた水揚げ高	-	延べ1,000万円以上	延べ530,100円	延べ2,149,470円	延べ3,565,350円	延べ3,565,350円	延べ3,565,350円	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	平成30年度は継続して、浜島地区・安乗地区・甲賀地区で試験操業が行い、徐々に目標値に近づいていたが、令和元年度は、アカモクの生育状況が悪く試験操業の実施を見送った。
観光商工課	4-6	中小企業者等支援事業	・商談会等に出展し、新しい販路を開拓した事業者の数	-	延べ15者以上	-	延べ2者	延べ6者	延べ6者	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値には達しなかったものの、徐々に実績も伸びているため、需要はあるため、効果があったと思われる。	
			・商談会等に出展し、新規需要開拓に向け商談成立となった事業者数	-	延べ5者以上	-	延べ1者	延べ4者	延べ4者	延べ4者	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値には達しなかったものの、商談会により取引が発生した事業者もいることから、効果があったと思われる。
			・利子補給補助制度を活用した事業者数	-	延べ65者以上			延べ18者	延べ52者	延べ52者	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値には達しなかったものの、継続して利用者が伸びており、令和元年度には大きく数字を伸ばしていることから、効果があったと思われる。
SDGs未来都市推進室	4-7	御食国食文化展開事業	・歴史や食文化を活かした農林漁業や観光業を活性化するための戦略	-	構築されている				構築されていない	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	委託事務の中で戦略についての提言がなされているが、構築にまで至っていないとは言えない。また、令和元年度において、地域資源の掘り起こしやその価値を伝えるための学びの機会の創出として、講演会を実施、企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため、中止とした事業もあり、効果を得られなかった。	
			・スタディツアー(学びのプログラム)の構築数	-	延べ5件以上				延べ2件	延べ2件	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	平成30年度にはスタディツアーを実施したものの、事業を見直した結果、令和元年度は実施せず、実績はなしとなっている。
			・後継者確保に向けて動きだした事業者数	-	延べ5者以上				実績なし	実績なし	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	後継者として動きだした事業者数は把握していない。

政策分野/担当部署	具体的な施策	KPI(重要業績評価指標)	現状値(H27年度)	目標値	H28年度の実績値	H29年度の実績値	H30年度の実績値	令和元年度の実績値	KPI検証結果	評価(総括)
出創生	観光商工課 5-1 志摩市を元気にする創業支援事業	・審査を行った件数	—	延べ10件以上	—	延べ4件	延べ5件	延べ9件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値に達していないが、協定金融機関の支援を受け審査を行った事業者が創業を実現しているため、有効である。令和元年度に補助対象とする事業を絞ったが、募集期間の見直しを行ったところ、件数が伸びた。
		・創業等を実現した件数	—	延べ3件以上	—	延べ4件	延べ5件	延べ9件	【A】 目標値を達成し、効果があった。	審査を行った事業者が全て創業し、現在も事業を継続している。
		・「ｸﾞﾗｯﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｲﾝｸﾞ」活用支援補助制度を利用し実施した地域の活性化に資する事業数	—	延べ2件以上			延べ1件	延べ1件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値には達しなかったものの、利用実績はあり、効果はあったと思われる。
	観光商工課 5-2 鵜方駅周辺の賑わい復活事業	・鵜方駅周辺の店舗利用者数	H28に調査	20%以上増加	—	0.8%減	2.1%増	11%減	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	賑わい作りの取り組みとして鵜方駅前ちびっ子祭りを開催はし、駅前の賑わい作りには一定の効果が出ているが、鵜方駅前の利用者を増やす実質的な取り組みにまで至っておらず、目標値を達成できなかった。
		・鵜方駅周辺に活気を感じる人の割合	12.7%	毎年70%以上	12.0%	6.3%	25.0%	19.0%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	鵜方駅前ちびっ子祭りを開催することで、目標値には及ばないが、市民に鵜方駅前を少しでも注目してもらい機会が作ることができており、効果は出ている。
		・鵜方駅周辺で新たに経営を始めた事業者数	H28に調査(H27分)	延べ2者以上	—	延べ3者	延べ8者	延べ11者	【A】 目標値を達成し、効果があった。	事業者の努力により鵜方駅前にて新規に事業を始められている事業者が出てきている。
	総合政策課 観光商工課 5-3 志摩市におけるガイド業の創出事業	・ガイド業で収入を得る人の数	—	H31に20人以上	—	5人	5人	9人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	令和元年度未現在で「合同会社遊ばんせ」の5人及び一般社団法人志摩スポーツコミッションのクアオルトウォーキングガイド4人の計9人であり、目標値の20人以上に達していないが、継続して活動を行っており、一定の効果はあったと思われる。ただ、「遊ばんせ」は、十分な収入を得れているわけではなく、クアオルト事業についても、令和2年度に事業化を目指し動き出したところであり、新型コロナウイルスの影響もあり、「稼ぐ」仕組みのモデルを構築するにまではまだ至っていない。
		・ガイドツアーを専門に扱う事業者数	—	H31に1者以上	—	1者	1者	1者	【A】 目標値を達成し、効果があった。	「遊ばんせ」が設立され活動しているため目標値を達成している。クアオルト事業については、専門に扱う事業者ではないため、カウントから除外している。
	観光商工課 5-4 高齢者と障がい者とその家族等のための観光サービス創出事業	・高齢者や障がい者の観光を支援するサービスの構築	構築されていない	構築されている	構築されていない	構築されていない	構築されている	構築されている	【A】 目標値を達成し、効果があった。	市内宿泊施設のバリアフリー改修補助事業を実施し、補助金の交付およびバリアフリーに関する講習会の実施を通じ、市内宿泊施設の高齢者と障がい者とその家族等のための観光サービスが向上した。また、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターとの連携を通じ、バリアフリー対応について配慮のある市内観光施設、宿泊施設等が増加した。
		・高齢者や障がい者の観光を支援するサービス業に参画する事業者の数	—	H31に50者以上	—	—	30者	45者	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標には達していないが、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターを通じて取組を行ったり、市内宿泊施設がバリアフリー改修補助事業を利用し改修を実施するなど、計45者がバリアフリー観光について取り組んだ。
	農林課 水産課 5-5 6次産業化推進事業	・6次産業化に新たに参入した事業者の数	8者	延べ10者以上	延べ10者	延べ13者	延べ13者	延べ13者	【A】 目標値を達成し、効果があった。	農林課として、南勢志摩さとうきび振興企業組合が新たに加わったが、その他の6次産業化にかかる事業者の増加にはつながらなかった。6次産業化支援事業による補助金制度も創設したところでもあるので、JA伊勢、伊勢志摩地域農業改良普及センター等関係機関とも連携しながら、支援事業者の発掘に努めたい。
		・6次産業化により利益が増えたと感じる人の割合	70%	H31に80%以上	70.0%	75.0%	69.2%	—	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	水産業では、6次産業に取り組んでいる事業者数の増加はなかったが、取り組んでいる事業者が加工した加工品を材料にし販路が拡大している。また、令和元年度は、アカモクの収穫ができず、実績無しとなった。 南勢志摩さとうきび振興企業組合は創業間もないため、十分な利益は上がっていないが、6次産業化に取り組むことで知名度、認知度も上がっており、一定の成果はあったと考えている。今後も、農産物の6次産業化により利益を生み出し、経営体制を整えることのできる事業者を支援できるよう取り組んでいく必要がある。 水産業では、令和元年度は、アカモクの収穫ができず、実績無しとなったこともあり、目標値には達しなかったが、需要量調査では需要量が生産量を上回っており、効果があったと思われる。

政策分野/担当部署	具体的な施策		KPI(重要業績評価指標)	現状値(H27年度)	目標値	H28年度の実績値	H29年度の実績値	H30年度の実績値	令和元年度の実績値	KPI検証結果	評価(総括)	
まちの形成	環境課	6-1 伊勢志摩国立公園の魅力向上事業	・参加する市民の数	—	年間1,500人以上	40人	—	685人	672人	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	コスモクリーンキャンペーンでは、市民に加えて、市外からの参加も多く、サーファーの当日参加も含めて大規模な清掃活動を実施することができた。また、イベントの告知をエフエム三重が連日放送したことにより、市民への環境意識の向上に向けて啓発ができたと考えられる。また、日進市との交流事業においては、直接市民がクリーンアップ活動に関わることはなかったが、大王町波切地区を歩いていただいたことで、国立公園の自然環境や大王崎灯台周辺の景観を楽しんでいただくことができた。	
			・国立公園のなかで暮らしているということ意識している市民の割合	35.3%	毎年90%以上	34.9%	35.9%	37.4%	37.8%	【D】 目標値に達せず、効果がなかった。	KPIについては、本事業のみで目標値の90%以上を達成することは難しく、様々な取り組みのなかの一つとして位置付けることが望ましいと思われる。	
	総合政策課 観光商工課	6-2 賢島の魅力発信力向上事業	・賢島に関わる事業者の連携と創意工夫で取り組まれた事業数	—	延べ5件以上	延べ1件	延べ1件	延べ3件	延べ5件	【A】 目標値を達成し、効果があった。	平成30年度末までの市主導で実施した事業であったため、令和元年度は、事業者が主体的に取り組む事業を促して実施した。	
			・賢島を訪れる観光客のうち志摩市の魅力を感じてもらえた方の割合	65.9%	毎年80%以上	65.9%	—	87.1%	88.4%	【A】 目標値を達成し、効果があった。	平成30年度のアンケートは、山崎豊子の企画展示会場で実施したこともあってか(企画展示への評価も含まれたせいか)、目標値を上回った。「賢島」というエリアの評価ではなく、アンケートを実施した場所(飲食店・ホテル)の評価に影響されることから、逆に、各事業者自身が、それぞれの満足度を高めていくことが、総じて賢島の評価へとつながる。	
	観光商工課	6-3	地域の特色を生かしたスポーツのまちづくり事業	・地域の特色を生かしたスポーツ振興に取り組む地域の数	—	延べ20地域以上	延べ3地域	延べ3地域	延べ3地域	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	対象となるスポーツ観光推進事業補助金の交付を行っている事業は、計9事業あり、各事業で利用されている地域は延べ15地域となっている。9事業の中から、地域住民が主体となり、地域の海岸等を活用し運営している3事業3地域を、地域の特色を生かしたスポーツ振興に取り組む地域として整理しているため、目標値を大きく下回る結果となっているが、事業全体では、地域でのスポーツ振興に効果があったものとする。	
	観光商工課	6-4	地域の魅力を見つけて生かす観光まちづくり事業	・観光まちづくりに取り組む地域の数	—	延べ4地域以上	延べ1地域	延べ1地域	延べ1地域	延べ5地域	【A】 目標値を達成し、効果があった。	和具地区での取り組みについては、ワークショップを立ち上げ、地域資源を活用した観光まちづくりとして「かつお餃子」の開発に着手したものの、商業化は厳しいとのことから、事業を終了となった。また、まちあるきマップの作成等、まちあるき事業の促進についても検討を行ったが、ワークショップのメンバーを広く、様々な連携が必要であることから、現実的な事業の実行には至らなかった。大王地区・安乗地区については、志摩市灯台活用推進協議会の設立により、両地区が連携して活動を行うことのできる基盤づくりができた。また、国府、志島地区のサーフスポットを有する地区についても、志摩市サーフィン活用推進協議会の設立により、具体的な取り組みを検討するための基盤整備とサーフィン関係者及び市役所関連部署の連携体制の構築を図ることができた。
				・参画する主体のうち、観光客や観光客とふれあう機会の増加を実感している人の割合	—	H31に80%以上	—	—	—	—	【E】 実施していない。	調査を実施していない。
	地域福祉課	6-5	生活拠点づくり事業	・住民が主体となって地区の課題解決に取り組む地区の数	2地区	延べ4地区以上	延べ2地区	延べ3地区	延べ3地区	延べ3地区	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	目標値は達成しなかったものの、和具、間崎の2拠点について、自主的な運営に至った。福祉の集いの場づくりのモデル事業として和具・間崎のそれぞれ等色ある集いの場が形成され、間崎は当事業により社会資源(イオンリテール株式会社)とのマッチングによる効果的な買い物支援モデルとしてノウハウが蓄積できた。難島としてのハンディがある中、今後、地域を支えるための継続的な公的支援が必要である。
	総合政策課	6-6	これからの志摩市の地域交通検討事業	・将来に向けた有効な地域交通のあり方として提案する件数	—	延べ3件以上	—	—	—	—	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	地域公共交通会議での意見をいただき、今後の交通施策の根幹として地域公共交通網形成計画の策定を進めた。
	保険年金課	6-7	子どもの医療費がかからないまちづくり事業	・制度を利用している中学生の割合	92.0%	毎年90%以上	91.9%	99.3%	98.5%	94.5%	【A】 目標値を達成し、効果があった。	アンケート調査を実施したところ、109件中103件(94.5%)が制度を利用しているとの回答を得て、目標値を上回った。
				・制度利用世帯に占める経済負担が軽減したと感じた割合	—	毎年100%	75.2%	83.1%	89.5%	82.5%	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	アンケート調査を実施したところ、103件中85件(82.5%)が世帯の経済的負担が軽減したとの回答を得た。目標値は達成できなかったが平成30年度までは、年度ごとに割合は上昇(平成28年度75.2%、平成29年度83.1%、平成30年度89.5%)しており、効果があったと思われる。
	総合政策課	6-8	市民や民間事業者による地域をおこすまちづくり支援事業	・支援申請をした事業者等の数	—	延べ6件以上	—	延べ1件	延べ1件	延べ1件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	相談はあるものの、申請に至るケースはほとんどなく、実績としては平成29年度の1件のみとなっているが、支援を行った事業者は継続して事業を行っており、相談についても継続してきていることから、一定の効果があったと思われる。
・事業に着手した補助対象事業の数				—	延べ2件以上	—	—	延べ1件	延べ1件	延べ1件	【B】 目標値に達しなかったが、効果があった。	同上。